

## 立入廣太郎教授略歴

一九一六年 三月三二日

東京日本橋で酒類商を営む父鑠一、母常子の三男一女の長男として生れる。

一九二三年 四月

十思尋常小学校―江戸時代の伝馬町牢屋跡に建てられた学校で吉田松陰の記念碑があった―に入学、この年九月一日の関東大震災により自家焼失す。

一九二九年 四月

東京府立第七中学校に入学、校長砂崎徳三先生の御薫陶をうける。

一九三四年 四月

大倉高等商業学校に入学、在学中、呉文炳先生の御恩顧をこうむり、その御薦めにより、同校卒業後、

一九三六年 四月

立教大学経済学部経済学科に入学、第二、三学年次に特待生として授業料免除の恩典をうける。在学中、河西太一郎先生の御教導をうけ、その御推薦により、同大学卒業後、

一九三九年 四月

立教大学経済学部助手に就職。

一九四三年 七月

立教学院アメリカ研究所経済班研究員を兼任。

一九四三年 一月

飯塚浩二先生の御推挙により立教大学経済学部助教授（一九四四年一〇月）に就任。

- 一九四四年 一〇月 学徒動員、学部縮少のため立教大学を退職し、立大学院アメリカ研究所経済班専任研究員に就職。一九四五年五月米軍機の空襲によりアメリカ研究所焼失。蔵書類を焼く。
- 一九四六年 一月 立大学院アメリカ研究所を退職。
- 一九四六年 一〇月 持株会社整理委員会に就職。はじめ文書課勤務、四七年四月より調査部第二課に移り、財閥解体史の編纂に従事する。
- 一九四九年 三月 持株会社整理委員会を退職。
- 一九四九年 四月 立教大学経済学部助教として復職。
- 一九五〇年 三月 持株会社整理委員会勤務中の同僚渡辺昭（父猛、母みきの三女）と結婚する。
- 一九五五年 四月 立教大学経済学部教授。
- 一九五五年 四月 同大学文化会釣部々長（一九八一年三月）
- 一九五五年 一〇月 同大学学生相談所嘱託（一九五九年三月）
- 一九五九年 一〇月 同大学体育会器械体操部々長（一九七七年三月）
- 一九六〇年 六月 同大学学生就職委員会委員（一九六一年三月）
- 一九六一年 九月 同大学教職員組合委員長（一九六二年八月）
- 一九六三年 四月 同大学経済学部経済学科長（一九六五年三月）
- 一九六六年 三月 同大学教育体制専門委員会第二部会委員（一九六六年四月）
- 一九六九年 四月 同大学経済学部部長兼経済学研究科委員長（一九六九年九月）

一九六九年 四月

同大学学校社会教育講座委員、図書館委員、学生相談所顧問、機関誌運営委員（一九

六九年九月）

一九七四年 四月

同大学図書館委員（一九七五年三月）

一九八一年 三月

定年制の規定により立教大学教授を退職。

一九八一年 七月

同大学名誉教授の称号を受ける。

# 立入廣太郎教授研究業績

ヨーロッパ復興計画

米国における経済力集中排除の理念

アーヴィング・リップコウィッツ「独占と大企業」(一)(訳)

コーウィン・エドワーズ「日本財閥の解体」(訳)

所謂「財閥の転向」について

アーヴィング・リップコウィッツ「独占と大企業」(二)(訳)

アーヴィング・リップコウィッツ「独占と大企業」(三)(訳)

ジェイムズ・エス・アレンの日本財閥観

解体時における四大財閥の資本支配の実態について

——持株会社整理委員会編『日本財閥とその解体』に寄せて——

『前進』第七号

持株会社整理委員会調査部  
『調査時報』第一卷第一号

一九四八年 二月  
一九四八年 四月

持株会社整理委員会調査部  
『調査時報』第一卷第二号

一九四八年 八月

持株会社整理委員会調査部  
『調査時報』第一卷第二号

一九四八年 八月

持株会社整理委員会調査部  
『調査時報』第二卷第三号

一九四九年 三月

持株会社整理委員会調査部  
『調査時報』第二卷第三号

一九四九年 三月

持株会社整理委員会調査部  
『調査時報』第二卷第四号

一九四九年 七月

『立教経済学研究』第四卷  
第一号

一九五〇年十一月

『立教経済学研究』第四卷  
第二号

一九五一年 三月

- 『日本財閥とその解体』第一部「日本経済と財閥」  
 F T C 報告「重役兼任」(一) 持株会社整理委員会 一九五一年 三月  
 F T C 報告「重役兼任」(二) 『立教経済学研究』第九卷 第一号 一九五五年 五月  
 F T C 報告「重役兼任」(三) 『立教経済学研究』第九卷 第二号 一九五六年 一月  
 日本財閥に関する若干の覚書——昭和十二年の三井物産—— 『立教経済学研究』第十三卷第四号 一九六〇年 二月  
 ヱイクター・パールの「所得革命」批判 『アメリカ経済四季報』第二集 三一 書房 一九五五年 四月  
 経済学講座第五卷 『日本経済』(共著) 大月書店 一九五五年 一〇月  
 A・A・アルズミアン 『世界資本主義の危機』(共訳) 合同出版 一九六九年 二月